

2024年2月29日 全7頁

Indicators Update

2024年1月鉱工業生産

自動車メーカーの一部工場の稼働停止の影響で生産指数は大幅に低下

経済調査部 研究員 石川 清香
エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2024年1月の生産指数は前月比▲7.5%と2カ月ぶりに低下した。大幅な低下の主因は自動車メーカーの一部工場の稼働停止だ。大幅減産となった自動車工業では、特に普通乗用車や駆動伝導・操縦装置部品の減産幅が大きかった。また、汎用・業務用機械工業や生産用機械工業といった業種でも減産が目立った。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に下方修正した。
- 先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。中国経済の回復や、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りなどが生産を下支えするとみている。他方、米欧での景気減速などが生産指数を押し下げるだろう。なお、ダイハツ工業の工場稼働停止で、生産指数の水準は当面下押しされるものの、影響は徐々に縮小するとみられる。また、トヨタ自動車の工場稼働停止の影響で、普通乗用車などの生産指数が下振れする可能性にも注意が必要だ。
- 2024年3月8日に公表予定の2024年1月分の景気動向指数は先行CIが前月差+0.1ptの110.3、一致CIが同▲7.4ptの108.5と予想する。予測値に基づくと、1月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年							2024年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉱工業生産	+2.4	▲1.8	▲0.7	+0.5	+1.3	▲0.9	+1.4	▲7.5		
コンセンサス								▲6.5		
DIR予想								▲8.2		
生産予測調査									+4.8	+2.0
補正值(最頻値)									+0.8	
出荷	+1.6	▲1.8	▲0.3	+0.6	+0.4	▲1.2	+2.2	▲8.3		
在庫	+0.2	+0.6	▲1.3	▲1.3	+0.6	+0.0	▲1.2	▲1.8		
在庫率	▲0.8	+1.0	▲1.0	▲1.7	▲0.3	+1.8	▲2.9	+3.9		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】自動車メーカーの工場稼働停止が重なり自動車工業が大幅減産

2024年1月の生産指数は前月比▲7.5%と2カ月ぶりに低下し、コンセンサス（同▲6.8%、Bloomberg 調査）を下回った。1回目の緊急事態宣言の発出などを受けて生産活動が全国的に厳しく抑制された2020年5月（同▲8.0%）以来の下げ幅となった。大幅な低下の主因は自動車メーカーの一部工場の稼働停止だ。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に下方修正した。

生産指数を業種別に見ると、15業種中14業種が前月から低下した。自動車メーカーの工場稼働停止の影響で、自動車工業（前月比▲17.8%）が大幅減産となった。品目別では、普通乗用車（同▲12.9%）や駆動伝導・操縦装置部品（同▲19.2%）の減産幅が大きかった。前者は、トヨタ自動車が大雪や生産工程の確認作業などの理由で1月下旬に一部工場の稼働を停止していたことが要因だ。また、軽乗用車（同▲31.8%）も大幅に減少した。軽乗用車を主力製品とするダイハツ工業では、認証不正問題を受けて1月中の国内生産が完全に停止していた。

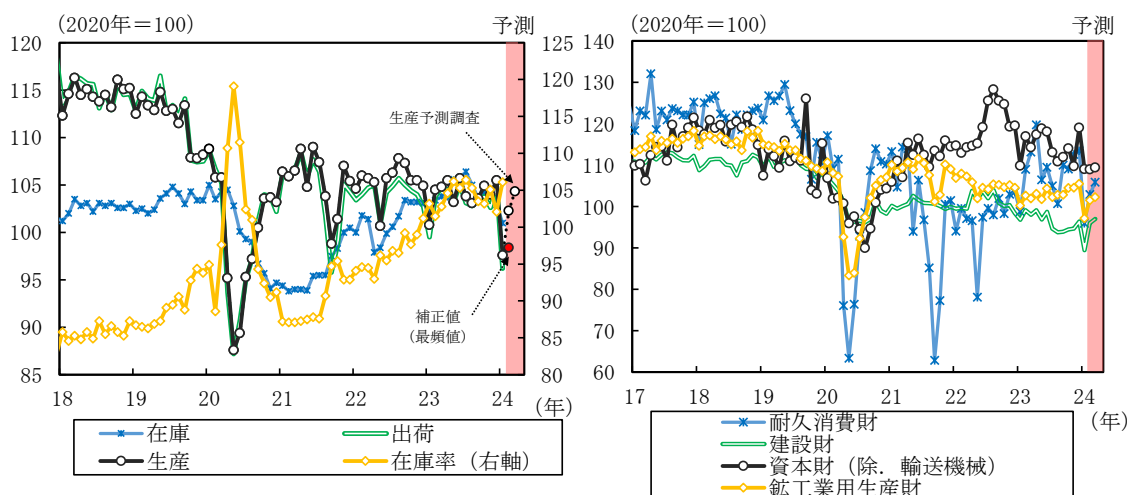
また、汎用・業務用機械工業（前月比▲12.6%）や生産用機械工業（同▲8.0%）などの業種でも減産が目立った。引き続き欧米を中心とした外需の低迷が国内生産の重石となっている。また、令和6年能登半島地震の影響で、石川県の業種別GDPシェアが高い両業種における生産が下振れした可能性もある。

財別ではすべての財が低下した。生産財（前月比▲7.4%）や資本財（除. 輸送機械）（同▲8.4%）が押し下げ要因となったほか、耐久消費財（同▲15.4%）、建設財（同▲7.2%）、非耐久消費財（同▲2.1%）も低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は全業種・すべての財で低下

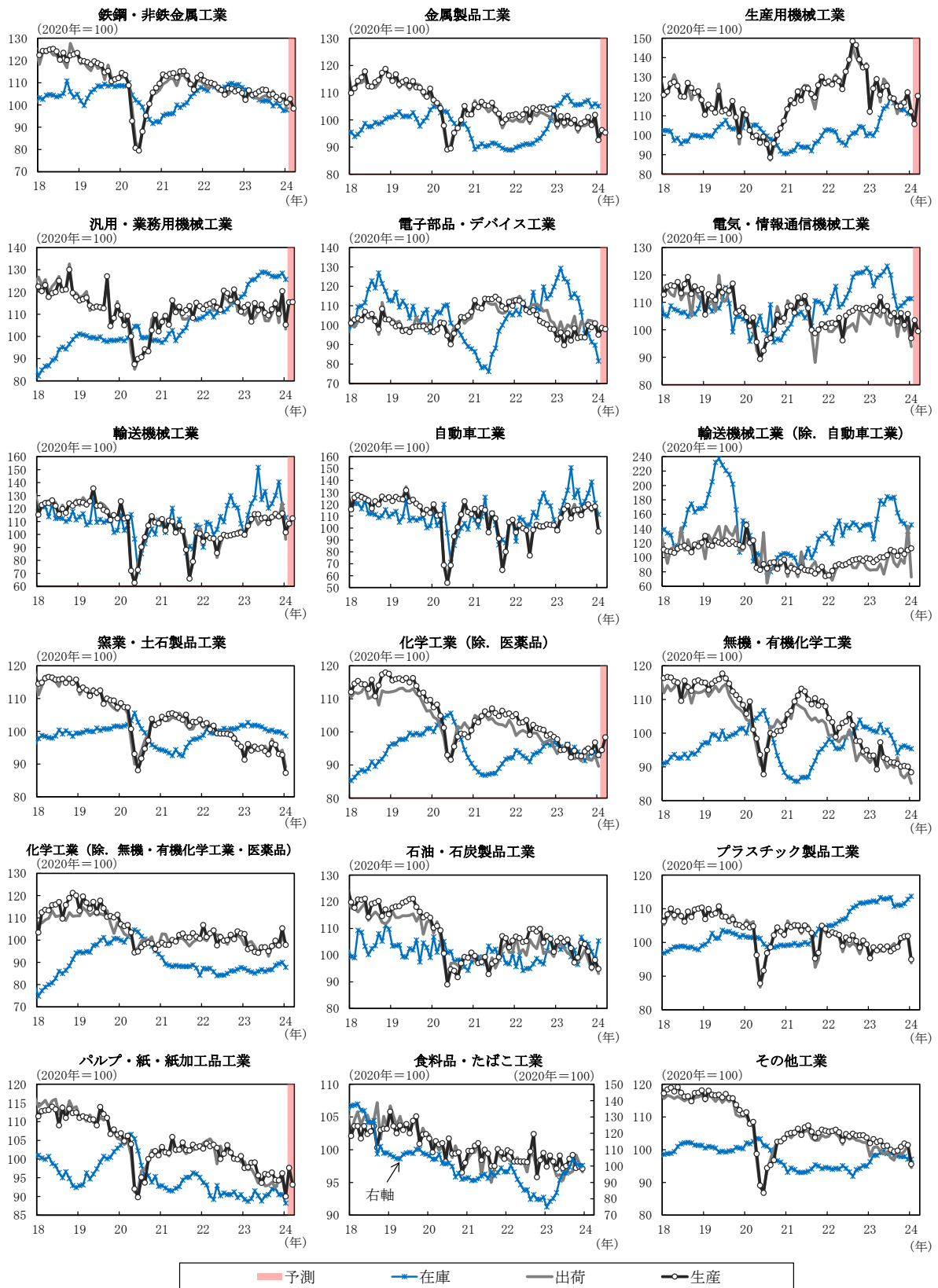
1月の出荷指数は前月比▲8.3%と2カ月ぶりに低下した。業種別では、自動車工業を中心に15業種すべてが低下した。財別では、生産財、耐久消費財、資本財（除. 輸送機械）、建設財、非耐久消費財がいずれも低下した。在庫指数は同▲1.8%、在庫率指数は同+3.9%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】半導体関連財の需要回復が下支え、資本財需要は引き続き低調

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。中国経済の回復や、シリコンサイクルの回復局面入りなどが生産を下支えするとみている。他方、米欧での景気減速などが生産指数を押し下げられるだろう。

日本の最大の輸出先である中国では、拡張的な財政政策や緩和的な金融政策のもとでの景気回復が見込まれており、日本の生産や輸出を後押しするとみている。またシリコンサイクルは2024年中に回復局面入りするとみられ、引き続き半導体製造装置をはじめとした半導体関連財の需要回復が見込まれる。日本半導体製造装置協会によれば、2024年1月の半導体製造装置の販売高（3カ月移動平均）は前年比+5.2%と、8カ月ぶりに増加に転じた。特に中国では日本の半導体製造装置への需要が旺盛であり、米国による対中輸出規制を背景に中国国内のサプライチェーンの強化が進んでいるとみられる。

他方、引き続き米欧を中心とした外需の下振れによって資本財生産は軟調に推移するとみている。とりわけ欧州では、域内最大の経済規模を持つドイツで2023年10-12月期の実質GDP成長率が同▲0.3%とマイナスに転じるなど、景気の停滞感が強まっている。ドイツ連邦統計局によれば、建設投資や機械投資の減少が主な下押し要因であったという。資本財の外需が低迷する中で日本国内での生産も抑制される可能性がある。

またダイハツ工業の工場稼働停止の影響で、生産指数の水準は当面下押しされるだろう。もともと、2月には一部車種の生産が再開されており、生産指数への影響は徐々に縮小するとみられる。他方、豊田自動織機におけるディーゼルエンジンの認証取得問題の影響についても注視する必要がある。トヨタ自動車はこの問題を受けて1月29日より国内4工場稼働を停止している。ディーゼルエンジン搭載車が自動車全体の台数に占める割合は小さいものの、同エンジンを搭載していない車種でも生産が停止されている点には注意が必要だ。2月半ばより一部工場稼働が再開されているとはいえ、先行きも普通乗用車などの生産指数が下振れする可能性がある。

製造工業生産予測調査によると、2024年2月は前月比+4.8%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+0.8%）と見込まれている。業種別では11業種中10業種が上昇する見込みだ。輸送機械工業（同+6.6%）で前述した工場の一部稼働再開による増産が見込まれるほか、汎用・業務用機械工業（同+9.6%）なども全体を押し上げるとみられる。他方、中国での春節の時期が前年と異なり、2月の中国の営業日数は前年同月よりも少ないため、日本からの輸出の下振れを背景に国内生産が下押しされる可能性がある。

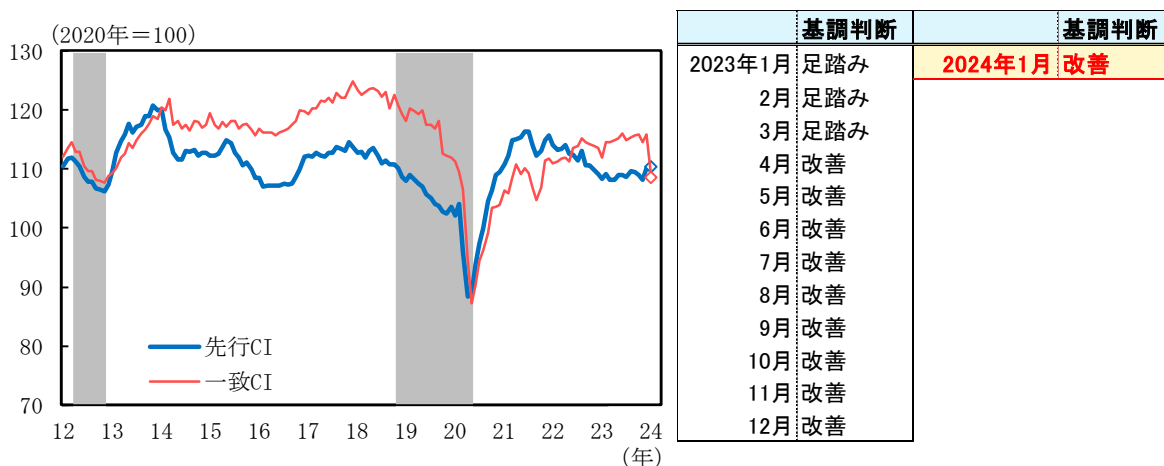
3月は前月比+2.0%となる見込みだ。業種別では、11業種中5業種が上昇するとみられている。生産用機械工業（同+13.7%）や輸送用機械工業（同+3.7%）などで増産が計画されている。生産用機械工業では、半導体製造装置などの受注増が見込まれている。他方、電気・情報通信機械工業（同▲3.9%）などでは低下が見込まれている。

【1月景気動向指数】先行CIは上昇、一致CIは低下の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年3月8日に公表予定の同年1月分の景気動向指数は先行CIが前月差+0.1ptの110.3、一致CIが同▲7.4ptの108.5と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、東証株価指数や消費者態度指数、中小企業売上げ見通しDIなどが改善した。また一致CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財出荷指数、生産指数（鉱工業）、耐久消費財出荷指数などが悪化した。この予測値に基づくと、1月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

先行きの経済活動は緩やかな回復基調を辿るとみている。2023年10-12月期の実質GDP（1次速報）は前期比年率▲0.4%と、民需の下振れを背景に2四半期連続のマイナス成長となった¹。2024年1-3月期以降は、所得環境の改善を受けた個人消費の増加や、中国経済の回復などを背景とした設備投資の持ち直しが期待される。他方、米欧での金融引き締め長期化などによって海外経済が悪化し、輸出などが下振れする可能性には引き続き注意が必要だ。

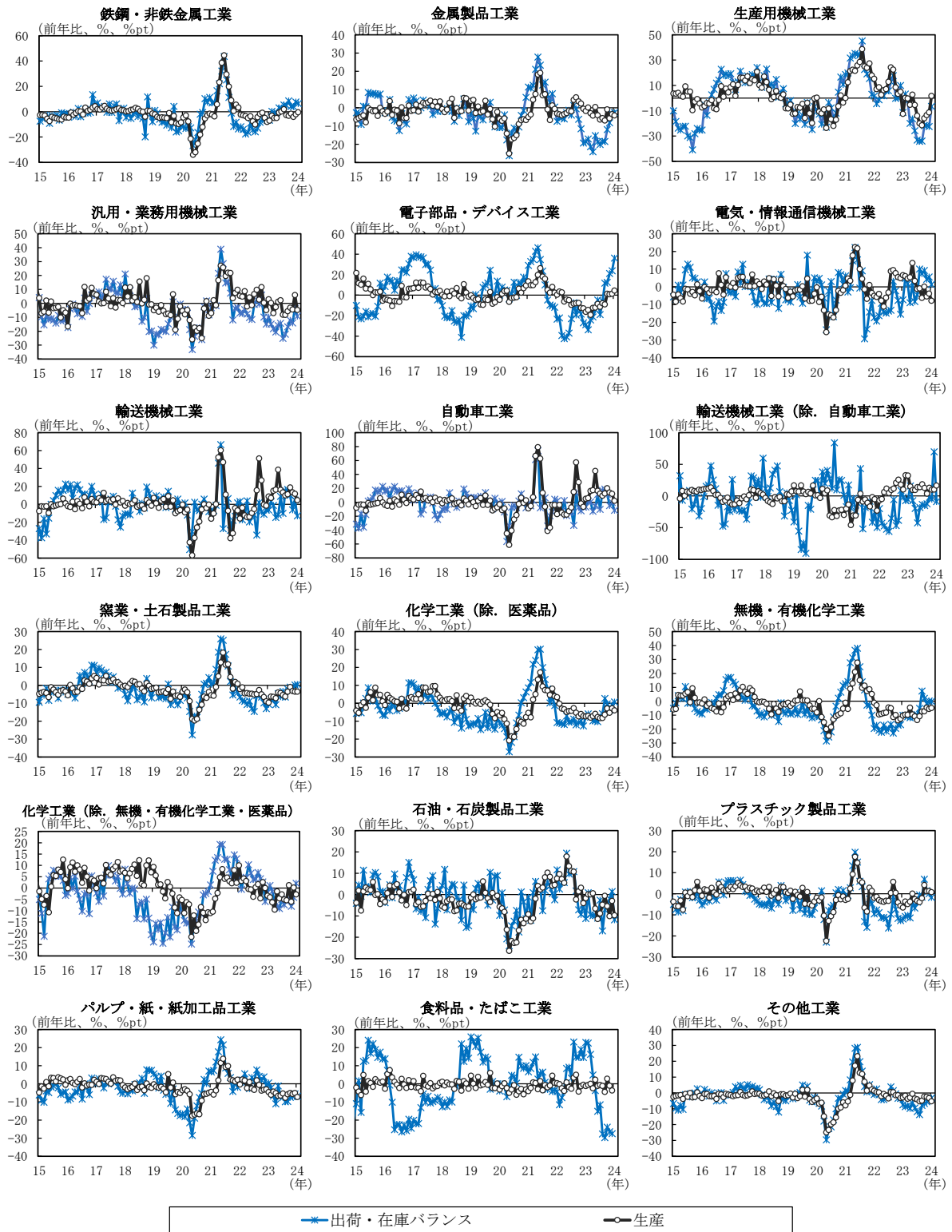
図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。
右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年1月は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

¹ 詳細は、神田慶司・田村統久「[2023年10-12月期GDP（1次速報）](#)」（大和総研レポート、2024年2月15日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



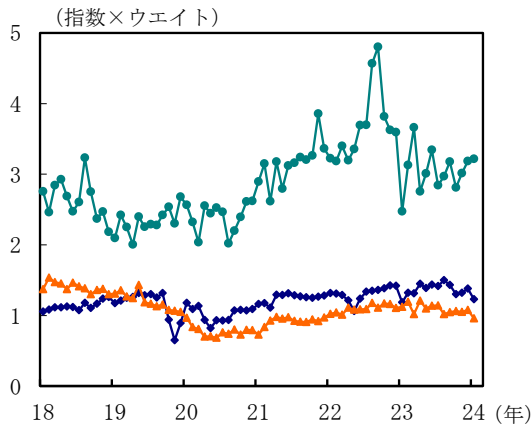
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

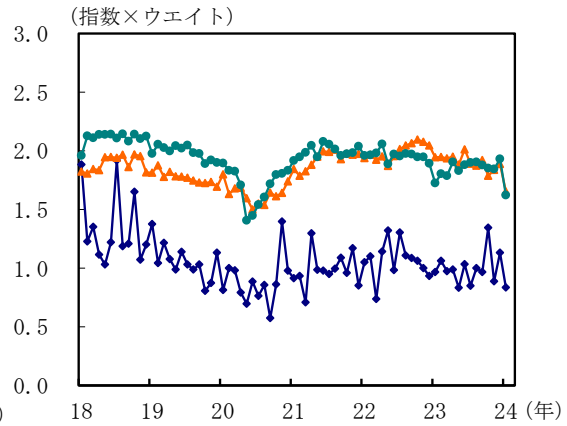
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



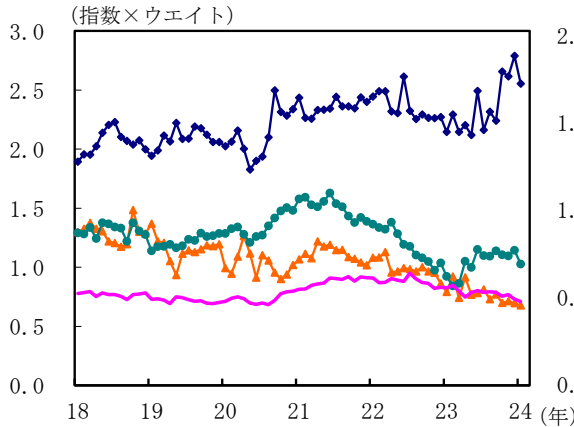
- 建設・鉱山機械
- 金属加工機械
- 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



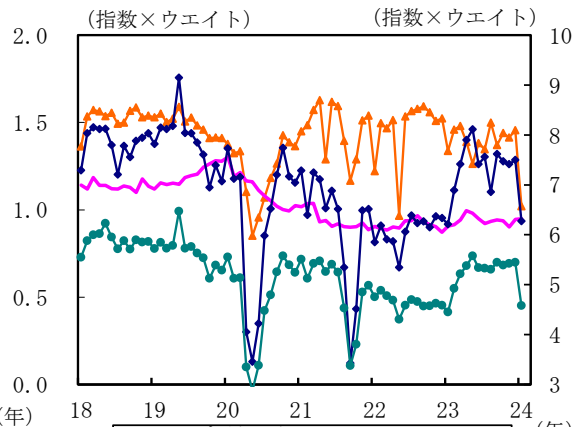
- ボイラ・原動機
- ポンプ・圧縮機器
- 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



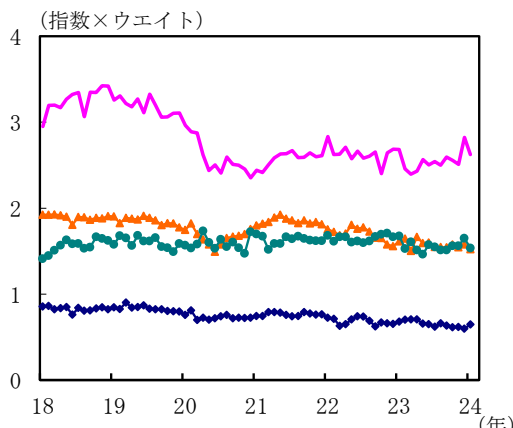
- 集積回路 (IC)
- 電子デバイス
- 電子部品
- 電子回路

輸送機械



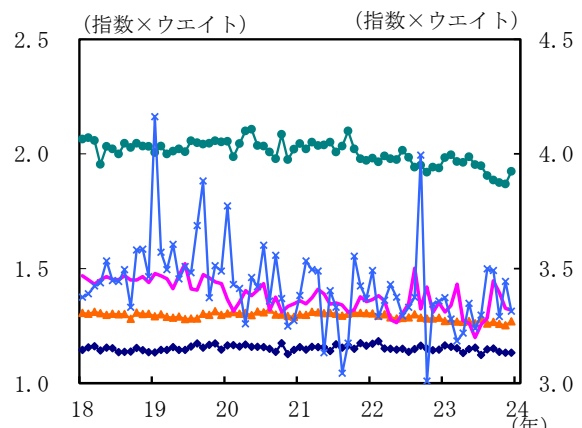
- トラック
- 船舶・同機関
- 乗用車 (右軸)
- 車体・自動車部品 (右軸)

化学



- 石油化学系基礎製品
- プラスチック
- 洗剤・界面活性剤
- 化粧品

食品・たばこ工業



- 肉加工品
- 乳製品
- パン・菓子
- 清涼飲料

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成